

(行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

令和 6年 8月 5日

白石市議会議長 松野久郎 殿

議員指名 大森貴之

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	令和 6年 7月 24日 (水)
調査・研修先	長野県・須坂市役所
調査事項 (研修事項)	(1) インターチェンジ周辺地区開発について (須坂産業団地開発) (2) 公共交通計画及び公共交通施策について (すざか市民バス)
対応者・講師等	市議会議長：浅井洋子氏 まちづくり推進部 まちづくり課 課長補佐兼都市計画係長：神林久雄氏、 交通政策係係長：山下智史氏 議会事務局次長：川口良江氏、 調査係主査：山田洋氏 他
概 要 ①背景・目的 ②内容・特色 ③主な質疑 ④考察 (感想、課題、 政策提言等)	① 目的・背景 ・開発予定地は市の南部、上信越自動車道、須坂長野東インターチェンジの北側で、須坂駅から約4km、車で約10分の距離に位置している。 産業振興のみならず、広域交流の促進が期待されている。 ② 内容・特色 ・開発面積 ≒ 48.08ha (エリアを3つに分類) ○ ものづくり産業 (1次、2次用地) 新産業団地 4社が着工 (建設完了し操業開始している社もあり) ○ 物流関連産業 流通団地 6社が着工 (建設完了し操業開始している社もあり) ○ 観光集客 大型商業施設 イオンモールを中心に3社が着手している ○ 各エリア内に於ける建設は、地盤整備からそれぞれの企業が自 行い須坂市としては土地利用の規制解除、土地利用調整を図った。 インターチェンジ周辺地区開発の課題 ・都市計画法 ・農業新呼応地域の整備に関する法律 (農振法) ・農地法 (*) 平成29年度 経済産業省所管の地域未来投資促進法が成立し、この 法律にそって調整を図ることにより課題がクリアされた。



○ すずか市民バスの運行

交通結節点である須坂駅前から、周辺の居住地や生活必需施設を連絡する路線であり、民間バス（3路線）と乗り継ぐことにより、広域への移動の補助的な役割を担っている。

○ すずか乗合タクシー

市民バスのネットワークから離れた長野電鉄の西側の移動を面的に保管する役割を担い、高齢者を主な利用者としてデマンド型の乗合タクシーを運行している。

(*）国の補助（フィーダー系統補助等）を活用している。

③ 主な質問

○ 産業団地開発に関連し、住宅（従業員用）施設等の建設は考えていないのか。

・産業団地開発に伴う住宅等の建設は考えていない。

○ 商業施設へのアクセスについて

・渋滞防止のため周辺市道の拡張、整備を行っている。

(*）国土交通省の官民連携基盤整備推進調査費が採択され、国の補助事業により道路整備をすることができた。

○ イオンモール出店に際して、反対意見等はなかったのか。

・地元説明だけでなく、市民対象の説明会を開催することにより市民参加スタイルのもと、理解を得られた。

○ 水害等に対する防災対策はどうなっているのか。

・令和元年の東日本台風時の雨量を基としたシュミレーションを実施し、盛土の実施や、防災協定などを打ち合わせている。

○ 産業団地内の上下水道設備はどうなっているのか。

・市内既存のラインと連携することにより、十分に対応できる。

○ 市民バスの運行経路等はどのようにして決めているのか。

・乗降場所の増設や、利用実績を検証し、路線等の見直しを定期的に行っている。

○ 長野電鉄西側で行われている乗合タクシーのエリア拡大は検討されていないのか。

・将来的に5エリアを予定しているが、バスも含め乗務員の確保が厳しく、今後の状況を踏まえ検討していきたい。

④ 考察

産業団地開発により、交流人口が増加するのみならず、就業場所の確保や定住人口の増加が見込まれると感じた。

交通網は駅を中心として市内北西部が重厚しているが、南部に拠点ができることによりエリアの拡大が考えられる。

拠点となる施設の役割を強く感じた。

(行政視察・~~政務活動~~・議員研修) 報告書

令和 6年 8月 6日

白石市議会議長 松野久郎 殿

議員指名 大森貴之

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	令和 6年 7月 25日 (木)
調査・研修先	長野県・大町市役所
調査事項 (研修事項)	鳥獣害対策について
対応者・講師等	市議会議長：二条孝夫氏 地域振興部 農林水産課 庶務部 主 査：傳刀章雄氏 地域振興部 農林水産課 庶務部 鳥獣調査員：平林錠路氏 議会事務局 庶務議事係 係長：西澤秀一氏、 主任：高橋良太氏
概 要 ①背景・目的 ②内容・特色 ③主な質疑 ④考察 (感想、課題、 政策提言等)	<p>① 目的・背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣対策に於いて、白石市に於いても近年サルによる被害が増加しているが、モンキードッグや猿捕獲用の罌の導入等により被害減少が報告されており、その状況を学びたい。 <p>② 内容・特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、モンキードッグは事業縮小している (追払い) (モンキードッグは最大20頭 ⇒ R5年 8頭) ○ ICT活用事業 (GPS等の実施事業) を導入している (捕 獲) ○ 現在はGPSと大型檻のセットで活用している ○ 捕獲体制は市職員及び猟友会合同で実施 ○ 檻上部の鉄製網からナイロン製ネットに変更 <ul style="list-style-type: none"> ・組立・解体の時間短縮ができる。 ○ 360度カメラ設置 (檻上部より広範囲を撮影可能) <ul style="list-style-type: none"> ・檻の内外のサルの位置を把握しながら捕獲⇒取りそこないを減らす。 ○ 大型檻サイド部分に小型止刺し檻を2基増設 <ul style="list-style-type: none"> ・オスと、幼獣・メスとを別々の止刺しに入れるため。 (大型オスは捕獲のストレスで幼獣やメスを傷つける) ・GPSやビーコンを装着したサルを判別・放獣するため。 ○ 大型檻の周辺に電気柵を設置 <ul style="list-style-type: none"> ・クマが出るかもしれない場所に限定して設置する。

- 捕獲には餌付けが大事
 - ・餌付け用餌としてはリンゴ・大豆・蕎麦・屑米が有効。
(リンゴは長期保存可能 ⇒ 年間300ケース使用)
 - 餌付け用餌の確保
 - ・農協・農家など関係団体との連携が大事。
 - 餌は沢山、根気よく餌付けをすること (1回に最低1~2ケース)
 - 群れかハグレかを見極める (子ザルがいれば群れと判断)
(ハグレはオスの可能性が高く、檻についてしまうと群れが来なくなる)
 - 小さめのサルが檻に入ってから捕獲する
 - ・オスを先に取ると幼獣やメスを捕獲できなくなる可能性がある。
 - 被害激減
- (*) 住民から「予防対策のやる気が出た」と前向きの声や、「サルが出なくなって農作物が作れるようになった」と喜びの声。

③主な質疑

- モンキードッグ事業が縮小した理由
 - ・一時的には追い払えるが、犬がいなくなればまた戻ってくる。
- ICT活用事業の導入までの経緯と効果について
 - ・生態調査はテレメトリーでの調査のみで、年間の行動把握が難しかったことで、より精度を上げるために導入した。
 - ・被害額 導入前の約1/3に 捕獲頭数 導入前の5倍に増加
 - ・住民からの通報件数 導入前 複数件/日 ⇒ 数件/年
- 猿捕獲用最新大型罟導入の経緯について
 - ・大きい群れ、長期間での捕獲に効果がある。
- 誘因物除去の取組について
 - ・耕作放棄地や、家庭菜園等の植物は各人の協力をいただき、餌にならないようにしている。
- 住居への侵入や観光施設・市施設への被害状況
 - ・宅地・住居への猿の侵入のほか、観光施設・市施設でのカラスの糞害が課題となっている。

④考察

鳥獣被害対策の中で、今回は猿を主に研鑽させていただいた。対象害獣の習性、行動範囲等を事前に調査、掌握しておくことが重要であり、そのためにICT活用事業を効果的に使用し成果へと繋げていく手法を視察できたことは、今後当市における鳥獣被害対策に応用できるよう検討していきたい。

鳥獣の行動範囲は一自治体内に収まらず、近隣自治体との共同作業が不可欠となるので、広域対策機関の設立を提言したい。